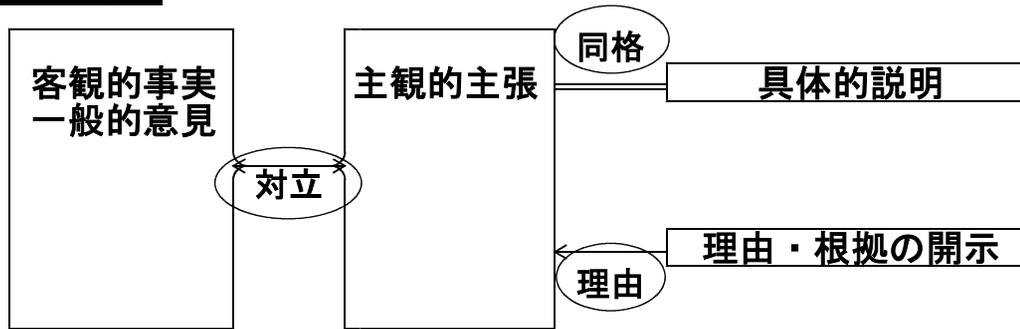


英語のロジック



著者がその段落で何度も繰り返し使っている語句のことを「主題＝キーワード」と呼ぼう。「主題」を追えば著者がその段落で何について語っているのかが分かる。

対立の論理（主張の提示）

◆対立の表現

しかし・しかしながら・ところが・だが・けれども
but, however, yet
それにもかかわらず、それでもやはり
nevertheless, still
逆に、一方
oppositely, in contrast, on the contrary, on the other hand

* 順接は **and** 以外にも「同格」「理由」「追加」「結論」も順接。

* 逆接は「対立」以外にも、「譲歩」も逆接。

同格の論理（テーマを繰り返して具体化する・具体例の提示）

◆並列の表現

つまり・すなわち・言い換えれば（換言）
namely, in other words, that is (to say), i.e., : , ;
例えば・～の様な（例示）
for example, for instance, such as, like
主に・特に（特化）
especially, particularly, chiefly, mainly, mostly

理由の論理（理由・根拠・原因の提示）

◆因果の表現

なぜなら・と言うのは（**主張**→なぜなら+**理由**）
because, because of, as, for, since
だから、従って、その結果、そこで（**理由**←そのわけで+**主張**）
so, therefore, thus, accordingly, consequently, as a result

追加の方法

◆追加の表現

その上、さらに、加えると
and that ~, beside that ~, beyond that ~
in addition, in fact, in[into] the bargain
as well, what is more
additionally, besides, furthermore

結論の提示

◆因果の表現

従って・それ故に・その意味で・その結果
so, therefore, thus, accordingly, consequently, as a result
for that reason

枚挙の方法

◆列挙の表現

第1に→第2に・最初に→次に→最後に・まず→また
first(ly), second(ly)～ last(ly), finally,
eventually
one, two, three ~ another, next, then
afterward(s), to begin with, to start with,
at the end

主張提示の方法① (強調構文・倒置構文)

◆強調構文の表現

AはBである。
It is B(プリプリ) that+A (残り)

(1)完全逆転型・(2)一部逆転型・(3)疑問文型

(1)Here comes the bus.

(2)Young as he is, he is rich.

(3)Little did I think that I would win.

主張提示の方法② (譲歩構文)

◆譲歩の表現

(なるほどAではあるが)しかしBである。

Indeed+文 A, but+文 B.

It is true that+文 A, but +文 B.

AばかりではなくBでもある。

not only A but [also] B

AではなくてBである。

not A but B

AにもかかわらずBである。

[A]though 文 A, [yet]文 B.

主張提示の方法③ (強調語)

◆強調語の表現

絶対に, 完全に, 全く～である(副詞)

absolutely, certainly, definitely, really, actually, clearly
completely, firmly, totally, entirely, utterly, indeed

～すべきである

should, ought to, must, have to

主張提示の方法④ (対比・対照法)

◆対比の表現

BよりもむしろA

A rather than B, rather A than B, prefer A to B,
B; if anything, A

BよりもAの方がもっと～

A is ~ er[more ~] than B.

A is ~ er[more ~] than any other B.

No other ~[No one, Nothing] is ~ er[more ~] than A

No other ~[No one, Nothing] is as ~ as A.

Aである一方でB

While A, B.

Aではなく、(その代わりに)B

not A, but B (instead).

要約作業のコツ

<誰でもできる要約問題の解法>

1. 原則的に、主張文は各段落の冒頭文にくるので、それをつなぎ合わせる。ただし、場合によっては最終文に段落のまとめがくる場合もある。普通は冒頭文をつなぎ合わせただけで要約の骨格が見えてくる！
2. 冒頭文以外に著者の主張を表す語句 (I think, I believe, ~)、注意語 (should, must, have to ~)、強調表現 (It is フリフリ+ that 残り、最上級、比較級)、などがあれば、冒頭文ではなくて、これらが含まれる文が主張文なので、これをつなぎ合わせる。
3. 対立表現 (but, however, on the contrary ~) の直後に主張がくる。
4. 例示 (for example, for instance) の直前に主張がくる。
5. 理由を表す語句 (because, because of, as, for, since) の直前、結論を表す語句 (so, therefore, thus, as a result) の直後に主張がくる。
6. 言い換えを表す語 (in other words, that is to say, namely) があれば主張が繰り返されていると思え。
7. 文章全体のテーマと結論を必ず反映させた要約にせよ！
8. 主張をつなぎ合わせて制限字数内でまとめる。超える場合は、「具体文」と「裏付文」を切り捨ててゆく。特に for example や A such as B などで表現されている「具体文」は要約には入る必要はない。ただし、利用できる表現があれば具体例中の語句でも利用する。

■採点法には、以前から問題が数多く指摘されている。例えば同一採点者でも採点開始直後と終了間際には同じような答案でも得点にかなりの差が出てしまうこと。だから細かな採点基準を設けてもあまり意味がなくなってしまう。

■東大の要約は、一定のレベルに達していたら○で、設問の配点全部を獲得し、達しなかった場合にはペケで零点となる。このくらいしないと公平性を維持できないわけだ。

■東大の採点基準は、要約に不可欠なキーワードを予め設定しておいて、その8割以上に言及していた答案は○。7割以下だとダメ。

■上の「冒頭文つなぎ合わせ法」を使えば8割以上のキーワードに大体言及できる！